

2021年度夏季手当交渉！！

第3回交渉～会社の考え～

中央本部は6月10日に「2021年夏季手当第3回交渉」を行いました。

会社の考え

- ① 昨年度は新型コロナウイルスの影響で需要が低迷したことに加え、九州地区の7月豪雨、年末年始の大雪の影響で鉄道収入が大幅に減少した。事業開発部門においてもテナント収入の減少がみられた。3月期の決算において単体で+0億円、連結決算で+14億円の黒字を確保したが一昨年と比較し**70億円越えの減収となり、先行きが不透明**である。
今年度の収入も対前年で10%、対計画は20%マイナスとなっている。
- ② 春闘交渉において「**業績は賞与で還元する。**」との考えを示している。これまでの社員の苦勞に答えなければならない認識はある。
- ③ 2021年度事業計画の算定にあたり、昨年10月時点では収入が回復傾向だったこともあり一昨年並みに回復すると予想していたが、1月に入り昨年の4月並みに落ち込んでしまった。新型コロナウイルスの感染防止対策を行いながら、業務を遂行している青年部員の努力には大変感謝を申し上げる。
- ④ 組合の主張を真摯に受け止め社内議論した結果、現時点では**昨年度の年末手当をどこまで上回れるか引き続き社内議論したい。**

組合の主張

- ① 職場はこの間コロナ禍においても使命感をもって業務を担ってきた。今年度の計画値は高かったという認識は会社にもあると話があった。**計画未達の責任は経営陣にある！！**
会社の考えは計画未達だから我慢しろとの言い訳にしか聞こえない！！
- ② グループを含めて新型コロナウイルスの感染が広がっている。感染予防対策として毎日のシーツ交換を求めているが、作業者が確保されず組合員自らがやっている。そうした**職場の苦勞に経営陣がどう応えるのか問われている。**現段階の回答では到底納得できない。再考を求める！！

青年部員は、あらゆる問題の中我慢しながら奮闘してきた。

「業績は賞与で還元する」という考えがあるならば、

経営陣は、満額回答をすべきだ！！